

AOI TYO Holdings

2018年12月期 第3四半期

決算説明資料

2018年11月

AOI TYO Holdings株式会社

目次

1. 連結決算概要
2. 連結業績予想

1. 連結決算概要

連結決算ハイライト

- 採算性重視の収益管理徹底、働き方改革に伴う受注コントロール等により、売上高は前年同期比減少も、実行利益率は改善し、営業利益の減少は限定的

単位：百万円	2016年12月期 3Q 実績	2017年12月期 3Q 実績	2018年12月期 3Q 実績	前期比
売上高	47,736	49,339	45,368	△ 3,970
営業利益	2,965	3,519	2,365	△ 1,153
経常利益	2,597	3,372	2,374	△ 997
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,126	1,897	1,520	△ 377
EBITDA	3,692	4,389	3,231	△ 1,158

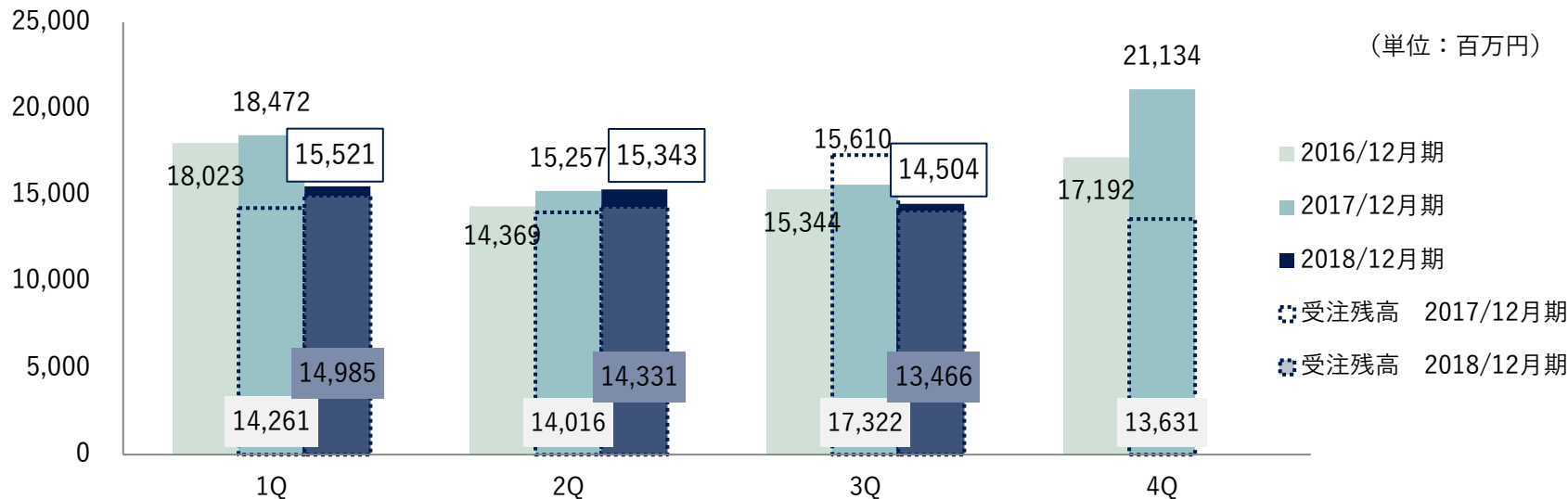
※ 実行利益：売上高から外部支出原価を引いた利益

※ 2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

四半期別売上高推移と受注残高

- 1Qの売上高は前年同期比大幅減少したものの、2Q以降はほぼ前年同期並み
- 当3Q末の受注残高は13,466百万円（前年同四半期末比22.3%減）

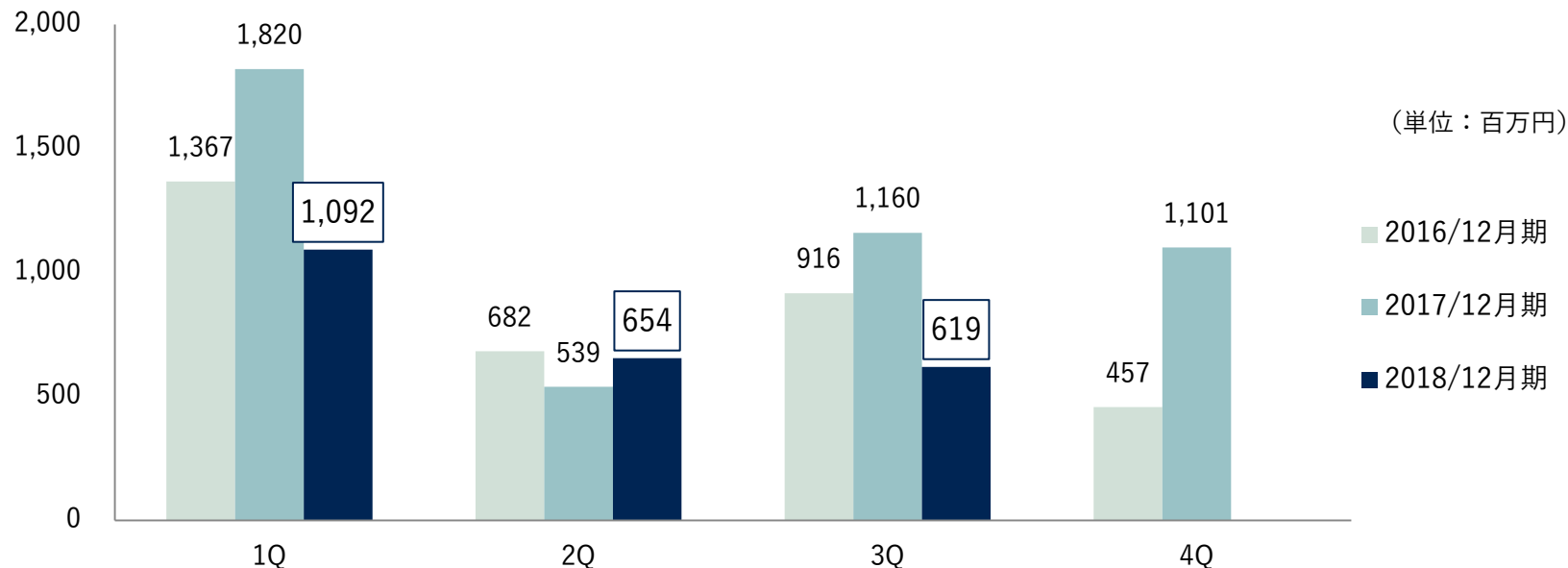
ただし、前期の受注残高には、大型の映画案件や翌期に売上計上される大口の長期案件等が23億程度含まれる



※ 2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

四半期別営業利益推移

- 3Qの営業利益は売上高減少に加え、オフィスの移転等の経費増加もあり、前年同期比減少

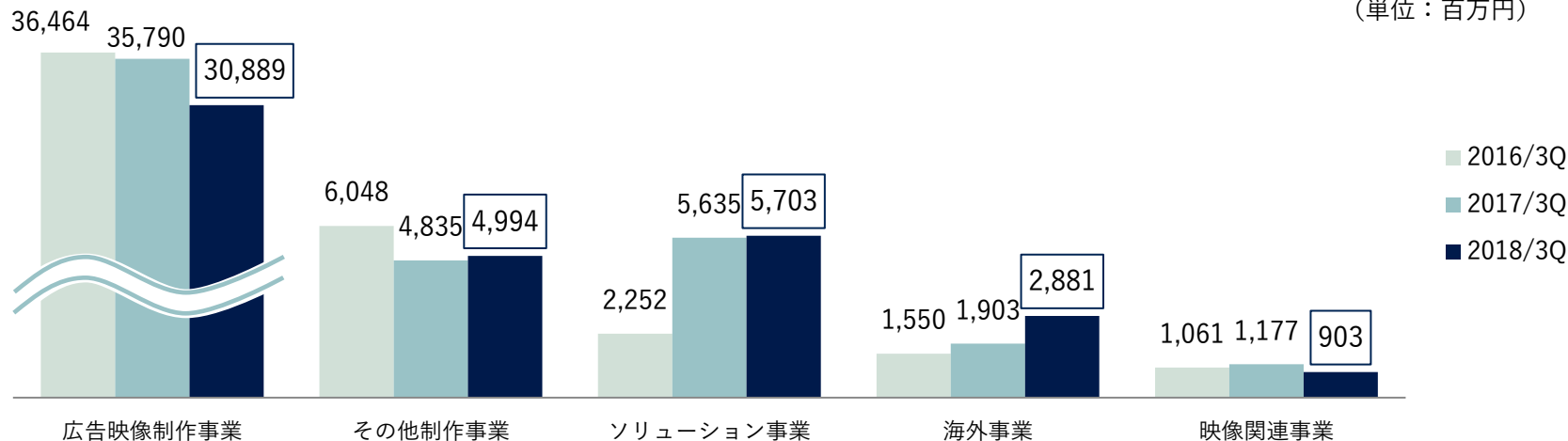


※ 2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

事業区分別売上高

- 広告映像制作事業は売上高が減少
- 海外事業はマレーシアの広告制作会社を新たに連結子会社化したこと等により、売上高が増加

(単位：百万円)



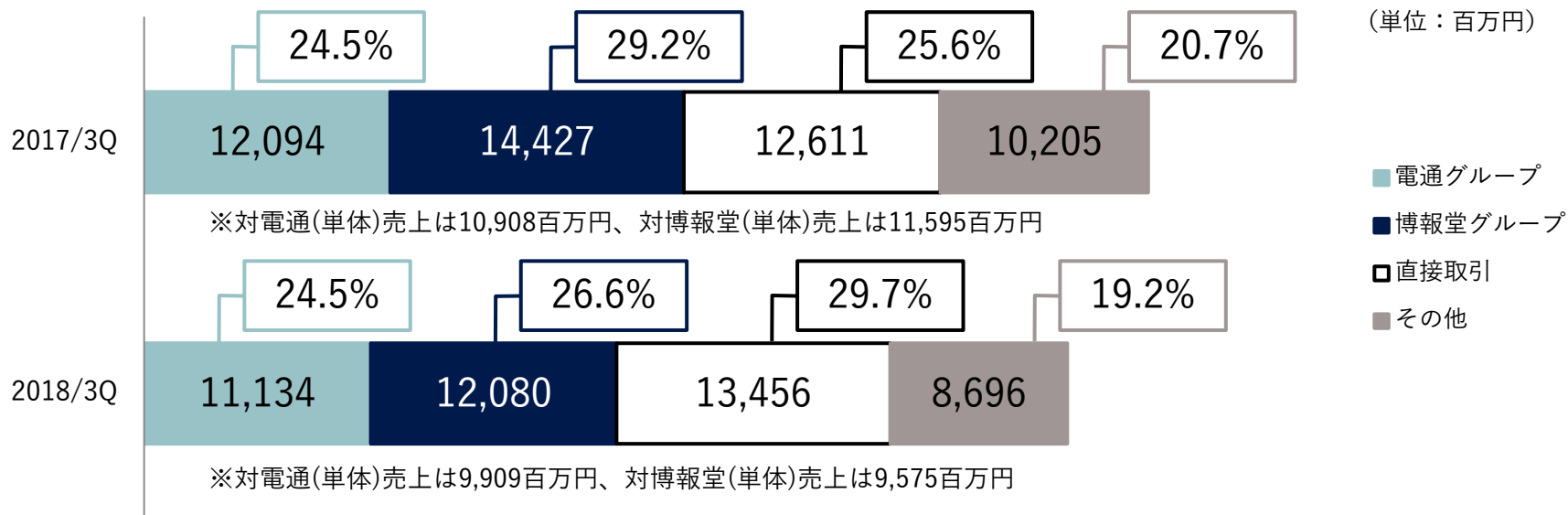
各事業区分の概要

事業	概要
広告映像制作事業	テレビCMなど広告映像の企画・制作を行う事業。AOI Pro.及びTYOの主力事業であり、経営統合により業界トップシェアを占める。
その他制作事業	広告映像以外の制作事業で、映画やドラマ、イベントの企画制作、デジタルコンテンツ制作や販促物制作が含まれる。
ソリューション事業	顧客の問題解決のための施策を提供する事業。広告主直接取引や、動画広告の企画制作からメディア配信、データ解析までのワンストップサービスのほか、VR等の環境下でセンシングしたバイタルデータを活用し、体験設計やマーケティング支援も行う。
海外事業	中国及び東南アジアに拠点を構え、日系及び現地企業との取引拡大を図る。M&Aを推進。
映像関連事業	写真スタジオの運営、ミュージックビデオの制作等を行う。

※ 広告事業セグメント=広告映像制作事業、その他制作事業、ソリューション事業、海外事業 / 映像関連事業セグメント=映像関連事業

顧客別売上高

- 広告代理店向け売上は減少
- ソリューション事業に加え、その他制作事業(イベント、PR等)における
広告主との直接取引も増加



媒体別売上高

(単位：百万円)

媒体	2017年12月期 通期	構成比	2018年12月期 3Q	構成比	前期比
テレビCM制作	44,119	63.2%	27,037	58.9%	△ 4,676
CMオリジナル	38,360	54.2%	23,109	50.3%	△ 4,323
プリント	2,745	3.9%	1,467	3.2%	△ 556
CM制作その他	3,014	4.3%	2,461	5.4%	203
エンタテインメントコンテンツ	3,865	5.5%	1,650	3.6%	△ 281
デジタルコンテンツ	11,312	16.0%	7,336	16.0%	△ 792
海外	2,801	4.0%	3,097	6.7%	1,746
その他	8,727	12.3%	6,781	14.8%	774
合計	70,825	100.0%	45,901	100.0%	△ 3,228

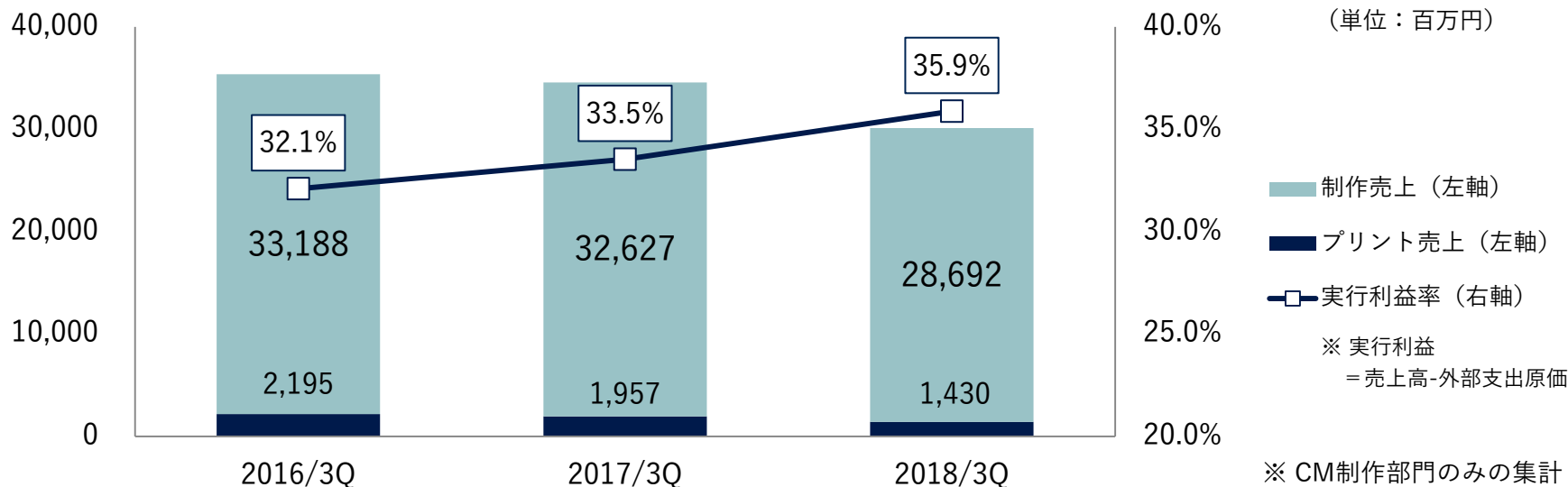
※(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの連結業績の単純合算数値を掲載。今回より一部集計範囲を見直いたしました。

連結貸借対照表サマリー

単位：百万円	2017年12月期	2018年12月期 3Q	主な増減要因
流動資産	41,503	35,436	現金及び預金△2,159、受取手形及び売掛金△4,269、電子記録債権△1,663、仕掛品+1,900
固定資産	18,234	19,823	有形固定資産△294、無形固定資産+676、投資その他の資産+1,207
資産合計	59,737	55,260	
流動負債	25,275	19,201	買掛金△1,543、短期借入金△4,155、前受金+943、未払法人税等△582
固定負債	8,756	10,260	長期借入金+1,543
負債合計	34,031	29,461	
純資産合計 (総資産に対する比率)	25,706 (43.0%)	25,798 (46.7%)	利益剰余金+800、自己株式△526
負債純資産合計	59,737	55,260	

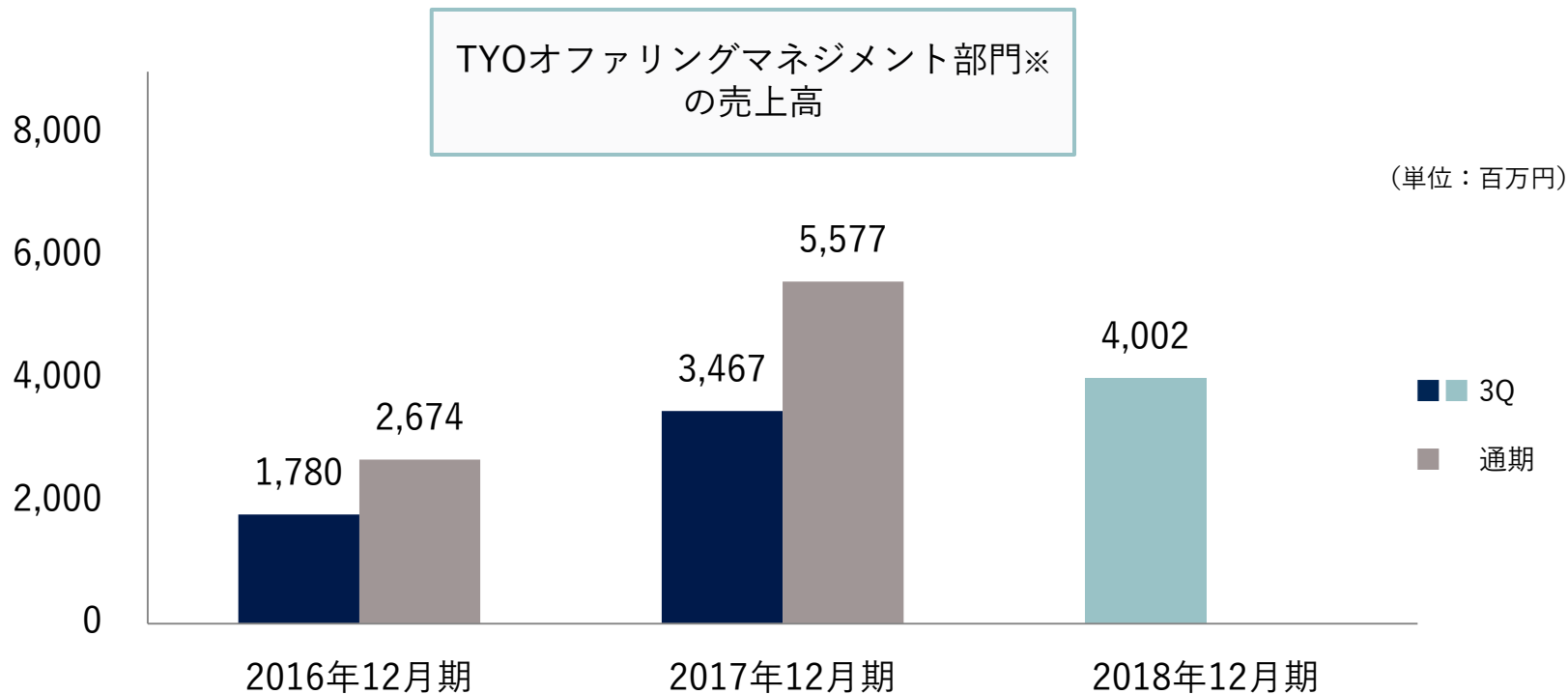
広告映像制作事業における取組み

- プリントレスの進行によりプリント売上が27%減少するも、外部支出原価の管理徹底が浸透し、実行利益率は引き続き改善



※ プリントレス：従来、各放送メディアへ入稿するためにテレビ素材を記憶媒体へ複製(プリント)して納品しており、その複製にかかる売上・利益が計上されていましたが、2017年10月以降、オンラインでのデータ送稿へ段階的に移行するためプリント売上が減少しています

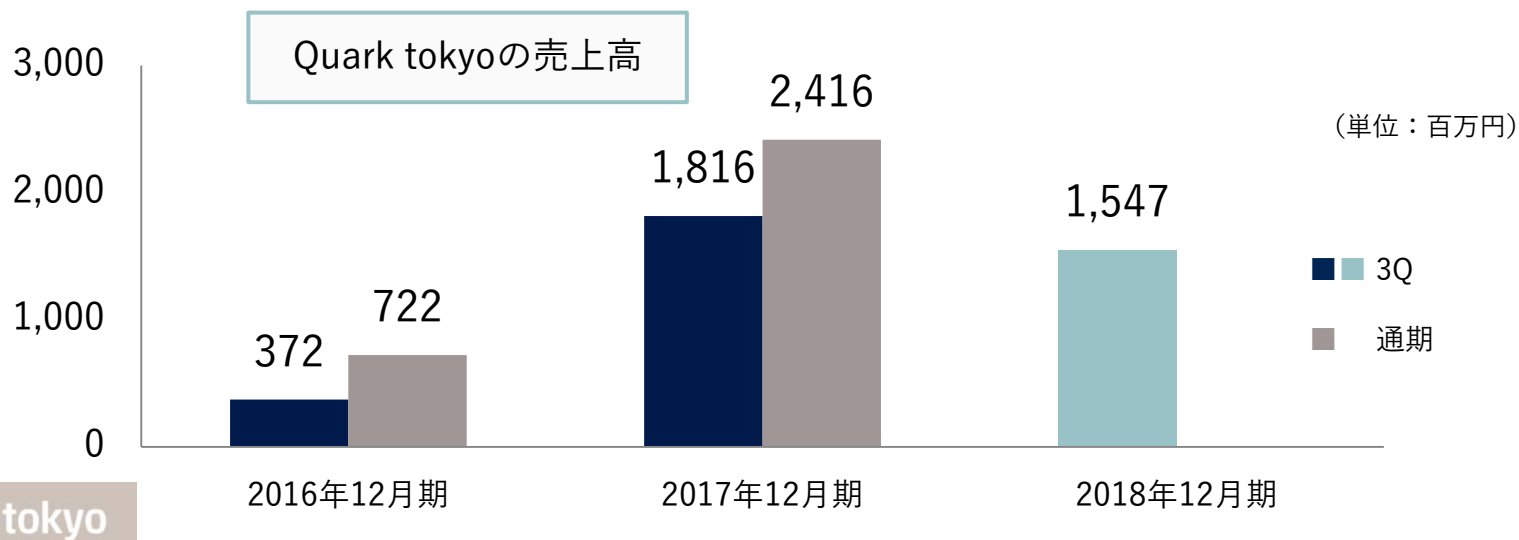
ソリューション事業における取組み ①



※ TYO営業統括本部より改称

ソリューション事業における取組み ②

- Quark tokyoでは、大型案件の企画・コンサルがあった前年同期比では売上高減少も、動画広告の制作は増加

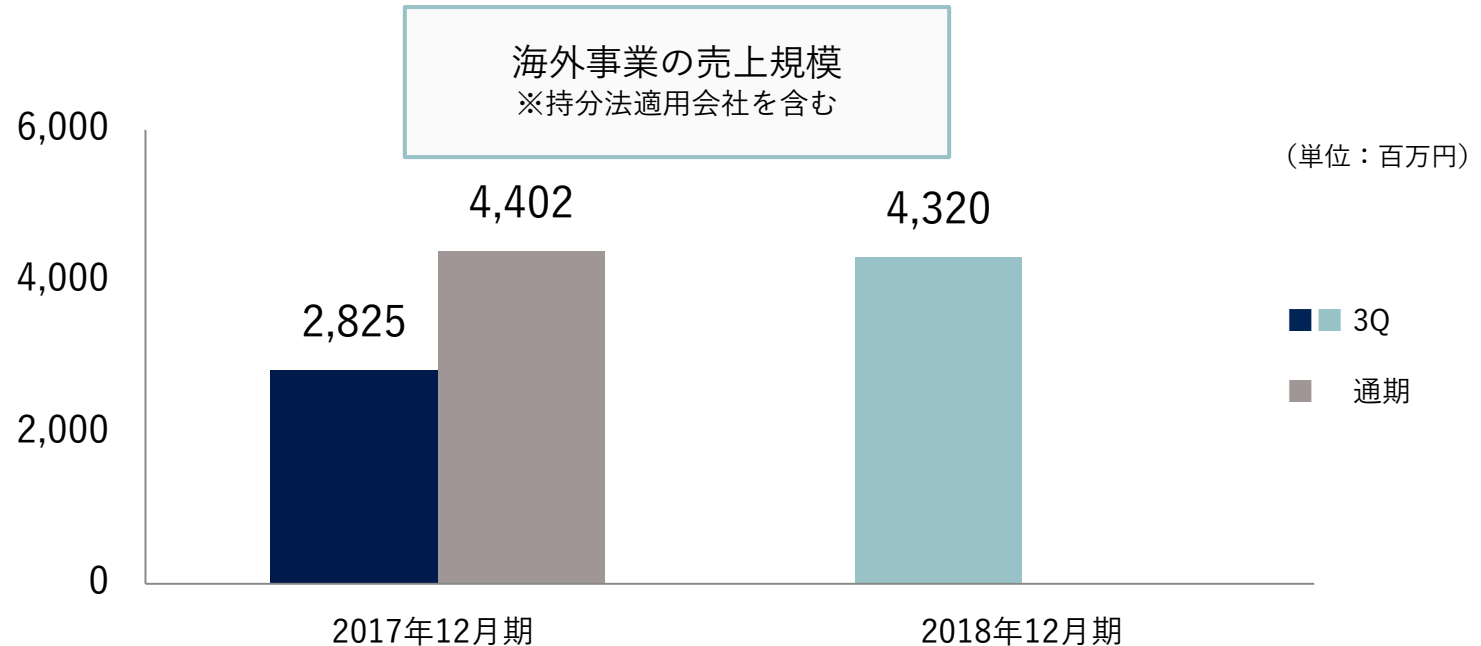


各領域のスペシャリストを集結し、動画を中心としたオンラインコンテンツの戦略立案、企画、制作、データ解析、メディア配信までのPDCAソリューションをワンストップで提供する体制を構築している。

海外事業における取組み

■ DTTグループ(マレーシア)の子会社化により売上規模が大幅に拡大

※ DTT : DIRECTORS THINK TANK



2. 連結業績予想

連結業績予想の進捗

単位：百万円	2018年12月期		2018年12月期		2018年12月期	
	3Q実績	通期予想	前期比	4Q必要額	前期比	
売上高	45,368	64,000	△ 6,473	18,632	△ 2,502	
営業利益	2,365	3,800	△ 819	1,435	335	
(営業利益率)	(5.2%)	(5.9%)	-	-	-	
経常利益	2,374	3,700	△ 694	1,326	304	
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,520	2,300	△ 481	780	△ 104	
EBITDA	3,231	5,230	△ 526	-	-	

株主還元

- 配当 -2018年12月期は、1株当たり30円（普通配当）の配当予想

	2Q末	期末	合計	配当性向	DOE
2017年12月期	8円	22円 (記念配当10円含む)	30円 (記念配当10円含む)	25.6%	2.9%
2018年12月期	8円	22円 (予想)	30円 (予想)	31.4%	2.8%

- 自己株式取得 -下記のとおり自己株式の取得を実施

	取得期間	株式の種類	取得株式の総数	取得価額の総額
2017年12月期	2017年5月16日～2018年2月27日	普通株式	261,400株	289,631,200円
2018年12月期	2018年6月1日～2018年6月7日	普通株式	400,000株	531,200,000円

免責事項

当資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおりません。

かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。従いまして、実際の業績はこの資料に記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、この資料の開示後において、かかる将来予想に関する記述を更新して義務を負うものではありません。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。
財務・IR部（03-3779-8415）